

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当該圏域は、県本土西部及び南西部に位置し、特定第3種漁港である長崎漁港及び長崎県地方卸売市場長崎魚市場を有するなど、水産業は基幹産業の一つとなっている。また、漁業協同組合については、現在、長崎市みなと漁協、長崎市福田漁協、長崎市新三重漁協、長崎市茂木漁協、長崎市たちばな漁協、西彼南部漁協、野母崎三和漁協、大村湾漁協、西彼町漁協で構成されている。また、近年も漁協合併を推進するなど、漁協の経営強化が図られている。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

大中型まき網、以西底びき網のほか、各地域で、中型まき網、小型底びき網などその特性にあった漁業が営まれている。

近年の資源動向については、減少傾向にあり、魚礁や築磯の整備、藻場等の保全に努めている。また、資源管理では、西彼地域、橘湾、大村湾海域それぞれの海域で各栽培漁業推進協議会が中心となり海域特性に応じた種苗放流を行い、つくり育てる漁業に熱心に取り組んでいるほか、漁業調整規則、海区調整委員会指示等による漁業制限や、漁業者間の独自の漁業制限に取り組むほか、海底清掃や密漁取り締まりの取組等を実施している。

③ 水産物の流通・加工の状況

特定第3種漁港の長崎漁港には、長崎魚市場があり、本地区や五島列島のほか、中国など海外からも多くの魚介類が集まる。また、漁港の背後地には加工団地があり、生産から流通、加工に至る水産基地を形成している。主な水揚物は、マアジ、サバ類、ブリ、イワシ類などで、長崎魚市場を通じて京阪神や関東方面へ出荷されている。

代表的な加工品は、アジ・サバの干物、かまぼこ、ちくわ、からすみなどがあり、地元や全国へ出荷されている。

④ 養殖業の状況

当該圏域では、ブリやクロマグロ、トラフグを始めとし、様々な魚種の養殖業を行っている。

地域内の高鮮度なエサを活用しながらも、地元での餌料確保が困難な場合には、従来活用していない時期や地域、魚種の水揚げを養殖用の生餌として調達し保管することで生餌の確保に努め、経営の安定化を図っている。

近年では、養殖魚のさらなる販路拡大等を図るための動きも活発化しており、戸石地域で生産している「戸石トラフグ」においては、販売や食事を行うイベントや料理フェアの開催、長崎「食」の博覧会による創作料理による食材としての認知度向上を図るなどの活動を行っている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

当該圏域における漁協組合員数は、令和元年時点で、正組合員 395 人、準組合員 588 人で、近年では減少傾向にある。今後も、減少・高齢化の傾向が続くものと見込まれる。

⑥ 水産業の発展のための取組

当該圏域では、水産物の直販施設として、長崎魚市場に隣接した地元漁協と民間企業による「長崎漁港がんばランド」のほか、各漁協においても直売所を開設し、旬の魚介類を PR するイベントを開催するなど、今後の水産業や観光の振興に寄与することが期待されている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

水産基盤整備に関しては、高齢化が進む漁業者や女性が安心して働くことのできる環境を整え、今後の漁業生産力を維持していくことや、漁港施設は全体的に老朽化が進行しているため、現状を調査して予防保全的な対策を施すことで施設の長寿命化を図り、将来の維持補修や更新にかかるコストを縮減していくことが課題となっている。

また、水産資源の増殖に向け、資源管理や栽培漁業等と連携した漁場の整備が求められている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当該圏域内の漁港で水揚げが行われる水産物のほとんどは、流通拠点である長崎漁港へ集荷し、各地域へ供給している。

地域内の漁業者は、漁獲物の活性化に取り組み、短期畜養や出荷調整によって品質の向上と安定的な供給に努め、付加価値向上を図っており、現在、地域全体で取り組みを実施し、漁協の枠を越えた広域的な集約と販売体制の整備によって、さらなる魚価の向上を目指している。

また、各港に現存する冷凍・冷蔵施設などの施設は、老朽化が進行していることから、地域の水揚規模等を勘案した上で、必要な施設や集約可能な施設の選定を行い、施設の集約について検討を進めており、沖の島漁港及び南風泊漁港においては、後者の冷凍冷蔵施設及び製氷施設を前者へ集約するとともに、陸揚・準備機能の集約を検討している。

(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由； 水産物を集約し、消費地や加工場へ出荷する。
② 圏域範囲	第1種漁港：12 第2種漁港：3 第3種漁港：0 第4種漁港：0 特定第3種漁港：1	設定理由； 流通拠点港への水産物の集約が及ぶ範囲
③ 流通拠点漁港	長崎漁港	設定理由； 当該漁港は、産地市場を有し、一定の港勢（取扱量 5,000t、属地陸揚金額 10 億円以上）がある漁港であり、現在、衛生管理型の荷捌き所整備を進め、高度衛生管理（L2 以上）を導入する予定である。 完成後においても現在と同様に圏域内の約 94%の水産物が集約される予定。 また、合わせて陸揚岸壁の耐震化を進めるとともに、流通拠点漁港として、地震・高潮などの有事の際に流通機能を停滞させないことを目的とした事業継続計画（BCP）計画を策定している。 さらに、被災時の緊急物資取り扱いを可能とする防災拠点漁港としての施設整備を行っている。

<p>④ 生産拠点漁港</p>	<p>たちばな漁港 蚊焼漁港 野母漁港 樺島漁港</p>	<p>設定理由；</p> <p>たちばな漁港は、登録漁船、利用漁船ともに 279 隻を有し、属地陸揚量 1,056 百万円を有する。(R1 港勢)</p> <p>全国一位の生産量を誇るトラフグの養殖生産拠点の役割を有しており、博覧会への出店などによるプロモーション活動の効果もあり地域の主要産業となっている。</p> <p>蚊焼漁港は、登録漁船、利用漁船ともに 60 隻を有し、属地陸揚量 739 百万円を有する。(R1 港勢)</p> <p>全国一位の生産量を誇るクロマグロの養殖生産拠点の役割を有しており、県内で開催された「本マグロ品評会」で大賞を獲得するなど、県内でも高い評価を得ている。</p> <p>野母漁港は、登録漁船 75 隻、利用漁船 82 隻を有し、属地陸揚量 74 百万円を有する。(R1 港勢)</p> <p>定置網、はえ縄、一本釣りが主な漁業であり、アジ類、スズキ、ブリ、イセエビが主に陸揚げされている。また、近年の漁獲量の減少に対処するため、イケスに水揚げされアジの中から、体長 26cm 以上、重さ 300～500g のものを厳選し、独自ブランド「野母んあじ」として販売し、ブランド化に取り組んでいる。</p> <p>樺島漁港は、登録漁船 43 隻、利用漁船 72 隻を有し、属地陸揚量 65 百万円を有する。(R1 港勢)</p>
-----------------	--	--

		<p>あぐり網、一本釣りが主な漁業であり、アジ類、イワシが主に陸揚げされ、いりこ製造等の水産加工業が地域経済を支えている生産拠点漁港である。また、一本釣りは圏域内では4番目の取扱量となっている。</p> <p>今後の対応として、災害時、漁港利用者の避難対策を確立する。(たちばな、蚊焼、野母、樺島)</p>
⑤ 輸出拠点漁港	長崎漁港	<p>設定理由；</p> <p>当該漁港は、1985年に日本で初めての中国鮮魚の受諾取引を開始し、2005年11月から中国へ鮮魚輸出を行っている。</p> <p>中国における販売先は上海・北京を中心に、35都市の高級日本料理店、中華料理店、西洋料理店及び高級デパートなど約550社まで達している。</p> <p>また、輸出促進百貨店や上海・北京常設販売店舗での長崎フェアとして、鮮魚等の販売・PRや各種イベントでの長崎鮮魚でのPRを実施した結果、輸出額が大幅に増加しており、今後も輸出の拡大が期待される。</p>
⑥ 養殖生産拠点地域	三重、蚊焼、戸石	<p>設定理由；</p> <p>三重地域は、ブリ類養殖の生産・流通を一体的に行っている地域である。</p>

		蚊焼地域は、クロマグロ養殖の生産・流通を一体的に行っている地域である。 戸石地域は、トラフグ養殖の生産・流通を一体的に行っている地域である。
--	--	---

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	66,374	圏域の登録漁船隻数(隻)	1,844
圏域の総漁港数	16 港	圏域内での輸出取扱量(トン)	非公表
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	10 港		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	三重、蚊焼、戸石
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	三重：ブリ類 蚊焼：クロマグロ 戸石：トラフグ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(トン)	ブリ類：非公表 クロマグロ：非公表 トラフグ：非公表
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	ブリ類：非公表 クロマグロ：非公表 トラフグ：非公表

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

流通拠点である長崎漁港においては、高度衛生管理対象範囲における陸揚げから荷捌き、出荷の各段階において、水産物への危害要因を取り除くためのハード対策として衛生管理に対応した岸壁及び荷捌き所の一体的な整備を行う。

また、市場関係者自らで作成した「長崎魚市場高度衛生品質管理マニュアル」などのソフト対策により、消費者に安全・安心な水産物を提供するための衛生管理体制強化を図ることにより、衛生管理レベルの向上に向けた取り組みを行う。

②養殖生産拠点の形成

全国的に水産資源が減少し、当県の漁獲量も減少している中、計画的かつ安全的に生産できる養殖業への注目は高くなっている。

また、国内市場は、養殖魚の需要バランスが崩れやすく産地間競争も厳しさを増しているため、産地の特性を活かした高品質な魚を生産しながら計画的な供給や販路の拡大に取り組むとともに、漁場再編による養殖適地の拡大により生産コストの低減や生産拡大等を図り、輸出など新たな需要に対応した養殖業の成長産業化に取り組む。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

当該圏域を含む長崎南地区の漁業生産量については、近年減少しており、また、令和3年度に県下全域で実施した藻場分布調査では、海水温の上昇が原因と思われる藻場面積の減少が確認され、今後の資源の悪化が懸念されている。そのため、水産資源の回復・増大を図るため、漁業者等が自主的に行う資源管理等の取り組みと連携しながら、沿岸から沖合いまで水産生物の成長に合わせた漁場づくりや環境の改善を実施、併せて増殖場の整備効果を確認するため、潜水調査やサンプリングによる餌料生物や魚類、藻類等の生育状況を継続的にモニタリングし、必要に応じ、植食性生物の駆除や藻類種苗の追加等の対策を講じる。

②災害リスクへの対応力強化

強風時や潮位差の影響を受ける状況においても、漁獲物の陸揚げ作業を安全かつ効率的に行うため必要な施設の整備を行う。

また、荒天時においても漁船が安全に係留できるよう必要な施設の整備を行い、他港への避難を解消することに加え、想定を超える規模の自然災害については、ソフト対策を含めて現実的な対応を実施する。

特に、防災拠点漁港においては耐震強化岸壁の整備及び事業継続（BCP）計画の作成、流通拠点漁港においては陸揚岸壁の耐震化を実施する。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

水産物や特徴的な地域の文化といった地域資源を活用した取り組みを行い、地域の宝である地域資源を掘り起こし、磨き上げるとともに、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」の構成遺産の一つとして世界文化遺産登録された軍艦島（端島）を結ぶ定期船の発着基地港となっている野母漁港など、周辺の地域資源との連携を行うなど、漁村の活性化を図る取り組みを推進する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁業者就労フェアへの参加や、全国漁業就業者確保育成センターの求人情報を活用し、IターンやUターン等の地域外からの新しい人材の発掘に努めるとともに、漁協毎に実践していた担い手の受け入れ体制を見直し、地域を越えた人材育成への再編を行うことで、地域内外から新たな人材を受け入れやすい環境を整備し、中核的担い手となる人材を確保する。

また、老朽化した施設の維持管理を行うとともに、浮棧橋や防風・防暑施設等の整備を行うことにより、就労環境改善に取り組み、高齢者や女性、新規就業者が働きやすい漁港づくりに取り組む。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
長崎	防災	水産流通	長崎	特3	○

水産物の生産・流通機能の早期再開及び緊急物資の集積・輸送機能の確保を図るため、岸壁及び臨港道路の耐震化性能の向上を図るとともに、輸出先国の需要に対応できる輸出対象魚種の安定的な供給体制の構築及び輸出先国のニーズに対応できる水産物の水揚げから荷捌き、出荷に至る一貫した衛生管理体制の構築を行い、輸出促進を図る。

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
三重	就労環境	水産流通	長崎	特3	○
戸石	防災	漁村再生	たちばな	1	

強風時や潮位差により、陸揚作業等が重労働かつ非効率となっていることから、防風施設や浮棧橋を整備することにより、安定的な出荷体制の構築による養殖生産体制の強化を図る。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
長崎南	環境変化 資源管理 藻場・干潟	水産環境整備事業

水産資源の維持・回復を図るため、種苗放流や禁漁区の設定など資源管理の取り組みと連携しながら、沿岸域に幼稚仔魚の餌場や隠れ場、成育の場となる増殖場を整備し、その沖合には効率的な漁獲が可能となるよう魚礁漁場を整備することにより、魚の成長に合わせた漁場づくりを行う。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
長崎	防災	水産流通	長崎	特3	○
戸石	防災	漁村再生	たちばな	1	
野野串	防災	漁村再生	野野串	1	
戸石	防災	海岸高潮	たちばな	1	
為石	防災	海岸高潮	為石	1	
そとめ	長寿命化	機能保全	そとめ	1	
長崎	長寿命化	機能保全	長崎	特3	○
相川	長寿命化	機能保全	相川	1	
式見	長寿命化	機能保全	式見	2	
かきどまり	長寿命化	機能保全	かきどまり	1	
深堀	長寿命化	機能保全	深堀	1	
沖の島	長寿命化	機能保全	沖の島	1	
たちばな	長寿命化	機能保全	たちばな	1	
蚊焼	長寿命化	機能保全	蚊焼	1	
南風泊	長寿命化	機能保全	南風泊	1	
野野串	長寿命化	機能保全	野野串	1	
野母	長寿命化	機能保全	野母	2	
樺島	長寿命化	機能保全	樺島	2	
為石	長寿命化	機能保全	為石	1	
子々川	長寿命化	機能保全	子々川	1	
白浜	長寿命化	機能保全	白浜	1	

近年の大型化している台風等の波浪による施設機能不足や、老朽化した施設の改良、機能保全工事を行い災害リスクへの対応力強化に取り組む。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
野母	地域振興	振興交付金	野母	2	

空いた水域を活用した海上釣堀等、海洋レジャーを実施するための浮棧橋等の整備を行うことによる、地域振興の取り組みを検討している。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
長崎	就労改善	水産流通	長崎	特3	○
野母	就労改善	機能増進	野母	2	
樺島	就労改善	機能増進	樺島	2	

強風時や潮位差により、準備・係留作業等が重労働かつ非効率となっていることから、防風施設や浮棧橋を整備し就労環境の改善に取り組む。

4. 環境への配慮事項

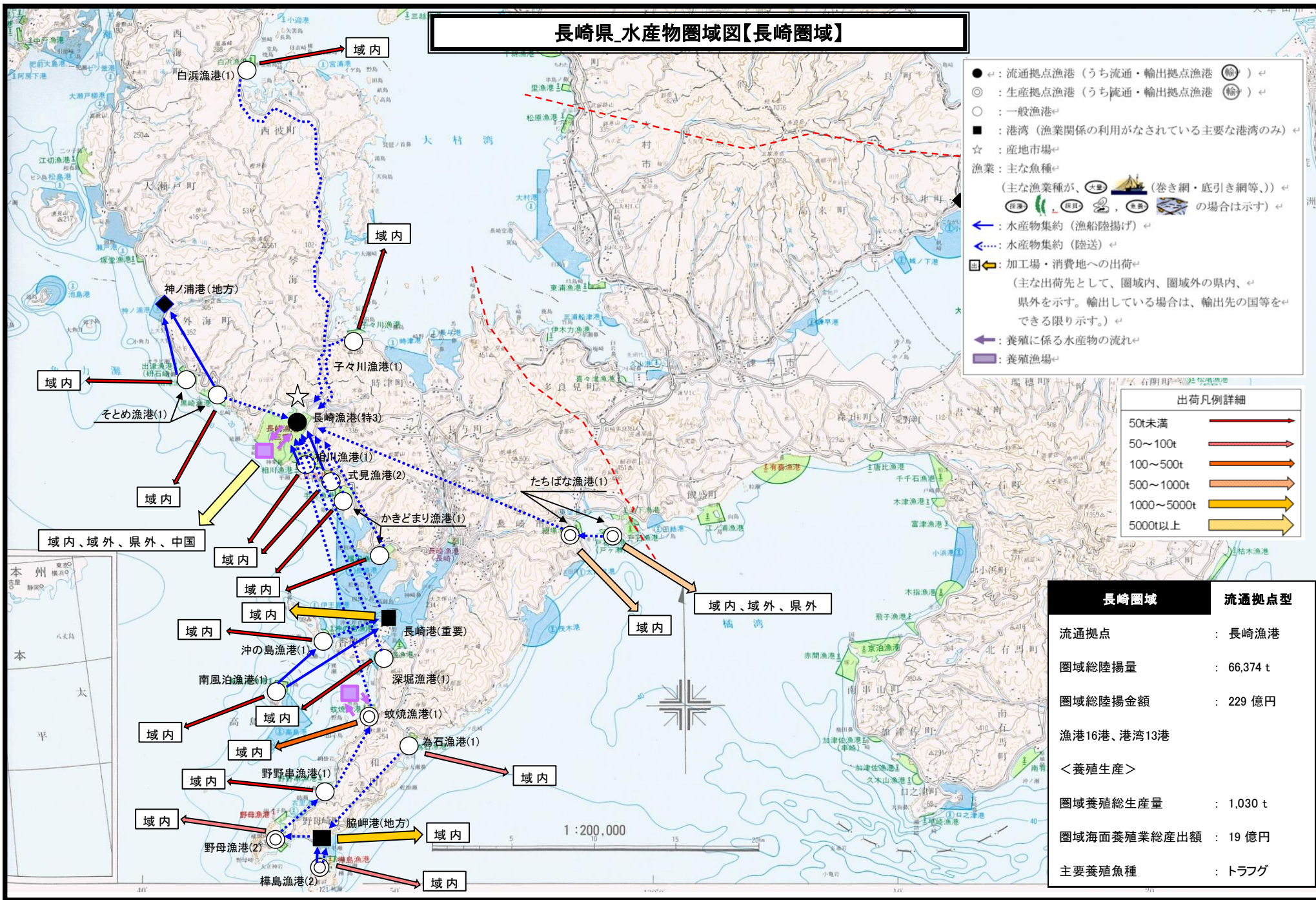
藻場は、多種多様な生物の産卵の場や幼稚魚の成育の場、海水の浄化など多様な機能を有しているが、近年「磯焼け」の拡大による藻場の消失が進行している。

このため、漁業資源の回復には藻場回復を計画的、効果的に進める必要があるとの地域の漁業関係者が共通認識の下、10年後の回復目標を定めた「長崎県藻場回復ビジョン」（平成28年7月）に基づき、関係者が一体となってソフト事業、ハード事業の両面から総合的な藻場回復に取り組んでゆく。

ソフト事業の面では、漁業協同組合を中心に「藻場見守り隊」を設置し、回復目標に向けた長期及び各年度の活動計画を定めた「地域藻場回復計画」を策定して地域別、藻場の状況別に対応策を講じることとし、ハード事業の面では、藻場見守り隊の活動に呼応して、藻場繁茂の基質と核藻場礁を整備する増殖場の整備事業を実施し、さらに磯焼け対策緊急整備事業等を活用して早期の藻場機能の発現を促し、藻場の拡大と早急な資源回復を図るとともに、漁港施設においても環境配慮型ブロックの設置等を推進して、漁場環境の改善を進める。

5. 水産物流通圏域図

長崎県水産物圏域図【長崎圏域】



- ：流通拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港 ⊕）
- ◎：生産拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港 ⊕）
- ：一般漁港
- ：港湾（漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ）
- ☆：産地市場
- 漁業：主な魚種
（主な漁業種が、（巻き網・底引き網等、）
（採魚）（採貝）（採貝）（養魚）（養魚）の場合には示す）
- ←：水産物集約（漁船陸揚げ）
- ←...：水産物集約（陸送）
- ：加工場・消費地への出荷
（主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、
県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を
できる限り示す。）
- ←：養殖に係る水産物の流れ
- ：養殖漁場

50t未満	
50～100t	
100～500t	
500～1000t	
1000～5000t	
5000t以上	

長崎圏域	
流通拠点	： 長崎漁港
圏域総陸揚量	： 66,374 t
圏域総陸揚金額	： 229 億円
漁港16港、港湾13港	
<養殖生産>	
圏域養殖総生産量	： 1,030 t
圏域海面養殖業総産出額	： 19 億円
主要養殖魚種	： トラフグ